

1 目的

(1) 豊かで思いやりのある子の育成

自尊感情や自己肯定感の向上を基盤に、共感的に学び合う集団作りを基本とし、児童と教師児童同士の間に心の通った信頼関係を深めます。居心地のよい学校・学級づくりを推進するとともに、地域に愛着をもたせ、将来の地域を担う人材育成を図ります。

(2) 命から学び、命を守り、命を尊ぶ

学校・家庭・地域と連携・協働し、自他の命を尊重し、思いやりをもち、健康で安全な生活を送ろうとする生き方を涵養します。

(3) 授業力向上を図る

校訓「かしこく やさしく たくましく」に向けて、コロナ禍を経て、萎縮感のある子どもたち・教職員たちが「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」

「協同的な学習」を進めるために、学ぶ機会を設定したり、外部の力を活用したりします。

2 内容

(1) 豊かで思いやりのある子の育成

ア スリンプル（スリムでシンプル）プログラムの推進（全学年）

ソーシャルスキルトレーニングと構成的エンカウンターを融合したスリンプルプログラムを全校体制で推進することで、自尊感情と自己肯定感を育み、豊かな個人と集団の育成を図りました。6月と10月に講師として曾山和彦氏を招聘し、研修会を行いました。取組状況に対してのご指導やご助言をいただき、多くの学びを得ることができました。研修会のあとも何人もの職員が個人的にアドバイスを求める姿があり、職員のこの活動に対する熱意と学びへの高い意欲を感じることができました。



【スリンプルプログラム研修】

イ 異学年集団（青空グループ）の活動（縦割り活動）

協調性や社会性を養うため、全校児童を12のグループ（青空グループ）に分け、1年間活動を行いました。顔合わせ時に行う遊び、石拾いなどの清掃活動、運動会の種目としての綱引き、お世話になった方々への感謝状作りなど多岐にわたる活動を通して、児童相互のつながりを深めるとともに、集団の一員であるという自覚や愛校心の醸成を図りました。

ウ 篠田っ子見守り隊への感謝状の作成（縦割り活動）

毎日登下校を見守ってくださっている見守り隊の方々へ、日頃の感謝の気持ちを伝えようと、感謝状にしてお渡ししました。メッセージに加えて、思い思いの絵や貼り物をして仕上げた感謝状は大好評で、地域との絆を深めることができました。

(2) 命から学び、命を守り、命を尊ぶ活動

ア 命を尊ぶ活動

金魚の飼育（全学年）

金魚を大切に世話することで、生き物に対して慈しむ気持ちや思いやりの気持ちを育ててきました。日々の世話は、飼育委員会が行い、夏休み期間は、ボランティアを募り、多くの親子に楽しんで世話をさせていただきました。

イ 命を守る活動

① 防犯教室（1・2・3年）

6月に、1・2年生を対象に愛知県警生活安全チーム「のぞみ」の方々をお招きして防犯教室を、11月には3年生を対象にママプラスの方々を講師にお招きしてキッズ防犯教室を行いました。「自分の身を守るためにはどうしたらよいか」をテーマにさまざまな身の守り方について学びました。

② 自転車教室（3年）

11月には、3年生を対象に愛知県警交通安全チーム「B-Force」による自転車教室を行い、自転車のヘルメットの着用用法や交通ルールについて学びました。自転車を使用して、交通事故に遭ったと想定したデモンストレーションを見て、ヘルメットを正しく着用することの大切さを学びました。

ウ 健康増進活動

① 食育活動（全学年）

児童が、一生にわたって健やかに生きていく基礎をつくるため、食事の重要性や栄養バランスの知識や食べ物を大切にする感謝の心について学年に応じて学びました。中でも6年生は、栄養教諭の兼子睦子先生をお招きして、弁当における栄養バランスについてご指導をいただき、「弁当の日」に向

けてのメニュー作りに役立てることができました。

② スクールカウンセラーによる講話（職員、保護者）

2月にスクールカウンセラーの松岡恵美先生をアドバイザーにお招きして、学校保健委員会を行いました。学校や家庭での子どもたちのコミュニケーションの様子についてグループセッションをし、シェアリングをしました。その後、松岡先生から「相手も自分も大事にできるコミュニケーションについて」をテーマにお話をいただきました。Iメッセージを意識した言葉がけをすることが大切だということを教えていただきました。

エ 命を育む活動

ジャガイモ、サツマイモ、ダイコンの栽培（1・2・4年、なのはな）

地域の農業委員さんの協力を得て、ジャガイモ、サツマイモ、ダイコンの種まきや植付、収穫を体験させていただいています。野菜の栽培活動は、児童にとって土に触れる貴重な体験であり、楽しい活動でもあります。特に、収穫時は、たくさんのイモやダイコンを手にして、どの子の目も輝いていました。収穫後は、各家庭で調理し大地の恵みに感謝していただきました。

（3）授業力向上を図る

ア 水泳指導の充実（全学年）

児童たちが安心して・安全に水泳の授業に臨めるよう、「水泳授業見守りボランティアサポーター」を保護者から募りました。延べ51名の方が集まってくださいました。熱くなったプールサイドへの水撒き、トイレ引率、活動中の安全の見守りをさせていただきました。見守りの目が多くなったことで、児童は安心して水泳授業に取り組むことができました。また、指導する教師においても、指導に集中することができました。【見守りボランティアの様子】



イ 特別支援教育の充実（全学年）

児童の特性を理解し、個に即した対処・対応を行うことは、教育効果をあげるためにも大切なことです。定期的に来校していただく学校教育相談員の加藤万佐子先生や竹島和美先生には学校生活の様子を見ていただき、担任と情報交換を行ったり、ご指導やご助言をいただいたりしました。

ウ SSS・SSWの活用（全学年）

ラーケーションの日モデル事業SSSとして2名の支援員を配属していただきました。児童の学習支援、教職員の作業支援を積極的に行っていただき、児童一人一人へのよりきめ細やかな指導と、教職員の多忙化が解消でき、大変感謝しております。

また、今年度よりSSWの加藤真由美様に定期的に来校していただいております。気になる児童の家庭の様子、保護者との関わり、児童の困り感について情報共有することで、関係諸機関との連携体制もでき、より多くの目での見守りができるようになりました。

3 評価

今年度も外部の講師の方々をお招きしてのさまざまな活動により、児童および教職員が多様な体験を積むことができ、考えを広げたり、自分を見つめ直したりすることができました。

2年目となるスリンプルプログラム研修では、教職員の児童理解力や人間関係調整力を意識して取り組んできたことで、児童の自尊感情や自己有用感の高まりが感じられるようになりました。「スマイルトーク」で身につけた力を授業で活用し、授業力向上を意識して臨むことができたことが、大きな成果となりました。

4 課題

共感的に学び合う集団、心豊かな個人と集団の育成は、昨年度に引き続き取り組んでいくべき大きな課題です。「スマイルトーク」を核に、来年度も篠田小学校の一人一人の心を育てるために、教職員が一枚岩となって力を注いでいきたいと考えています。